

中欧屈指のオーケストラが奏でる豊かなハーモニー

スロヴァキア放送交響楽団

Slovak Radio Symphony Orchestra

作曲家が名曲に託した
祖国への想い、大地への賛歌。

指揮:マリオ・コシック

グリンカ

「ルスランとリュドミラ」序曲

チャイコフスキー

ピアノ協奏曲第1番

ドヴォルザーク: 交響曲第9番

「新世界より」



ピアノ:スタニスラフ・ジェヴィツキ



2010年 **11/19** (金) PM6:45開演
(PM6:00開場)

愛知県芸術劇場コンサートホール

主催/中京テレビ放送
お問合せ お申込み
中京テレビ事業 ☎052-957-3333
〒460-8613 名古屋市中区錦3-15-15 CTV錦ビル6F
(月~金 AM9:30~PM5:30/土・日・祝日休業)

http://cte.jp

中京テレビ事業

検索

料金(税込)
S席 10,000円
A席 8,000円
B席 6,000円
C席 4,000円
学生 3,000円

6月11日(金)AM10:00~
一般発売開始!!

チケットぴあ(Pコード:108-526) ☎0570(02)9999
愛知芸術文化センターPG ☎052(972)0430
ローソンチケット(Lコード:43666) ☎0570(084)004
栄フレチケ92(旧三越PG) ☎052(953)0777
中日サービスセンター ☎052(263)7282
イープラス eplus.jp ※プレオーダー 他

学生券
ご希望の方は往復ハガキに、希望公演名、公演日時、住所、氏名、年齢、電話番号、学校名、学籍番号を明記の上、中京テレビ事業「学生券」係までお申込み下さい。公演の3週間前に抽選の上、お席をお取りできるか否かご連絡致します。往復ハガキ1枚につき、1公演1名様でお願い致します。

●出演者等変更になる場合がございます。予めご了承ください。
●未就学児のご入場はご同伴の場合でもお断り致します。

熱い情感のスラブ魂と愛郷のスラブ精神。 中欧トップクラスのオーケストラがそのすべてを聴かせる！

自然の中で故郷を愛し続けてきた人々 — 「中欧」という言葉には、どこか詩情を感じさせ、慎ましくも地に足の着いた人々の生活を思わせる響きがある。その中欧の一角を占める小国、スロヴァキア的首都ブラチスラヴァから同国で最も歴史のあるスロヴァキア放送交響楽団が久しぶりに日本にやってくる。実に13年ぶりだ。

チェコ、ポーランド、ウクライナ、ハンガリー、オーストリアと国境を接するスロヴァキアだが、歴史を紐解くまでもなく、長年ハプスブルク家の影響下にあったことで華やかで洗練されたヨーロッパ文化に浸ってきた一方で、西スラブ人の地域であることの誇りと情熱も失うことはなかった。何しろ、スロヴァキアという国名自体が、「スラブ」を語源としているのだ。

スロヴァキア放送交響楽団は世界の「放送オーケストラ」と同じように、「放送」(すなわち電波)という性格上、長い歴史を持つものではない。しかし、それでもこのオーケストラは80年余の間、活動を続けて来た。そして同時に、電波の向こうで耳を傾ける数多くの人たちのために、さまざまなプログラムに対応してきた。その適応力の高さが、放送オーケストラの最大の強みである。

楽団員はスラブ系がほとんど。だからスラブ系の作曲家による作品を前にすれば、自ずと気持ちが入り、まさに「十八番の演奏」になってしまうのは当然だ。その彼らの能力と情感が最大限に発揮されるプログラムを携えての今回の来日となった。

疾走し続けるエネルギーが一気に私たちをスラブの世界に引き込む、グリンカの歌劇「ルスランとリュドミラ」序曲。雄大なロシアの大地とスラブ人の情熱を内に秘めた暮らしぶりから生まれるべくして生まれた、ピアノ協奏曲の王者、チャイコフスキーのピアノ協奏曲第1番。そして、中欧に生まれ育ち、中欧の素朴で豊かな世界を描いた作曲家ドヴォルザークが残した交響曲の傑作、「新世界より」。願ってもない名曲の組み合わせだ。

ピアノは「ショパンの名手であるタチアナ・シェバノワの息子」という形容詞がもはや不要であるほど、独自の世界と大きなスケールを持つピアニストに成長したスタニスラフ・ジェヴィツキ。そして、指揮はスロヴァキアと隣国チェコにあって、次代を背負って立つと有望視されている、新鋭指揮者マリオ・コシックという、フレッシュな顔合わせになっている。



マリオ・コシック
(指揮)
Mario Kosik

ブラチスラヴァ音楽院にてヴァイオリンと指揮を学ぶ。卒業後、ブラハ室内管弦楽団、ブラハ交響楽団、フルノ・フィルハーモニー管弦楽団、ヤナーチェク・フィルハーモニー管弦楽団など、チェコ有数のオーケストラに客演。2006年にはモラヴィア・フィルハーモニー管弦楽団と来日公演を果たした。スロヴァキア国外でも活躍しており、ドイツ、オーストリア、イタリア、スペイン、ポーランド、チェコ、ロシアなどヨーロッパで数多くの指揮を務めている。現在、スロヴァキア放送交響楽団の首席指揮者として活躍している。スロヴァキア、チェコの音楽界において最も注目を集めている新鋭指揮者のひとりである。



スタニスラフ・ジェヴィツキ
(ピアノ)
Stanislaw Drzewiecki

1987年モスクワ生まれ。ショパン・コンクール第2位を受賞したタチアナ・シェバノワを母に、ピアニスト及び指揮者として活躍しているヤロスラフ・ジェヴィツキを父に持つ。幼少時に親元を離れてピアノの研鑽を積み、わずか5歳でリサイタルデビュー。翌年オーケストラと共演し、ヨーロッパ各地でリサイタルを開く。2002年ソニー・クラシカルより4枚目のCDを発売。2003年にNYカーネギーホールで、同年11月には初来日リサイタルを開き絶賛された。2005年にはアレクサンドル・ラザレフ指揮・読売日本交響楽団とも共演した。

受賞歴として、モスクワ・ピアノコンクール入賞、1999年スペイン・ヨーロッパ・テレビフェスティバルでグランプリ受賞、2000年ノルウェー・ベルゲン「若きミュージシャンのための第10回ヨーロッパ・コンテスト」グランプリ受賞など。今回で6度目の来日となる。

ご注意と
お願い

・会場内における飲食、喫煙はご遠慮下さい。
・また、写真撮影、録画、録音等は一切禁止とさせていただきます。

・開演後のご入場は制限させていただく場合もございます。
・都合により曲目の変更がある場合もございます。予めご了承下さい。